

令和 6 年 6 月 30 日現在

機関番号：99999

研究種目：奨励研究

研究期間：2023～2023

課題番号：23H05084

研究課題名 別室登校指導に対する教職員の意識の解明（2） - 負担感軽減に向けた支援体制の構築 -

研究代表者

中川 靖彦（NAKAGAWA, Yasuhiko）

舞鶴市立大浦小学校・校長

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 460,000円

研究成果の概要： 令和3年度研究では、教職経験10年未満の若手と20年以上のベテラン教職員に別室登校指導の負担感が高いことがわかったが、さらに令和5年度の本研究では、管理職も負担感を強く感じていることがわかった。

若手教職員と校長経験者に対するPAC分析及びインタビュー調査によって負担感の少ない別室登校支援について探索的に調査を行った。

若手教職員調査では、別室登校生徒の学力保障や進路の不利益回避のための個別指導の難しさや、教育観の理想と現実の狭間に生じる葛藤が負担感の一因になることがわかった。校長経験者調査では、校内支援体制として児童生徒の情報共有と専門家との円滑な連携が一層重要になっていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

全国の不登校児童生徒数が30万人に迫る中、不登校児童生徒への支援の充実喫緊の教育課題となっている。現在、校内教育支援センター（SSR）などの充実が求められている一方、多くの学校で別室登校による支援が常態化している現状がある。また、教職員の働き方改革やメンタルヘルス対策においても負担感や多忙の解消は喫緊の課題であることから、この重要な二つの課題に対し、学校教育臨床研究の観点から明らかにしたことは学術的にも社会的にも意義深い研究であったと考える。

研究分野：臨床心理学

キーワード：別室登校 不登校児童生徒支援 メンタルヘルス 中学校教職員 負担感

1. 研究の目的

不登校児童生徒は2013年度以降再増加を続け、学校教育の極めて深刻な問題となっており、各校で多様な支援が進められている。不登校経験のある児童生徒のうち、「別室に登校していたことがある」とした者の割合は小学校47%、中学校46%であり（文部科学省，2021）看過できない人数規模となっている。しかし、別室登校指導の在り方や校内支援体制における位置づけが不明確であることなどから、教職員の負担感が生じる等、多くの課題が指摘されるものの、具体的な研究はこれまでほとんど行われてこなかった。

本研究では、令和3年度奨励研究（21H03953）の成果をさらに一步踏み込み、PAC分析及びインタビュー調査を実施することで、別室登校指導における教職員の負担感を生起させる要因とその過程について探索的に解明するとともに、負担感軽減につながる協働的な校内支援体制構築に向けたモデルを提示することを目的とする。

本研究は、チームとしての学校の理念の実現へとつながる社会的な意義をもった研究である。さらに、不登校児童生徒への支援とともに、学校における働き方改革にも資する研究である。

2. 研究成果

（1）若手教職調査

若手教職員の負担感が高いとの研究結果に基づき、中学校若手教職員2名を対象とするPAC分析及びインタビュー調査を実施した。

<結果>

A教諭からは、【将来の保障】【登校することの価値】【他者との関わり】の3つのクラスターが抽出された。B教諭からは、【学習の保障】【生徒理解】【人間関係の構築】【教師の精神的余裕】の4つのクラスターが抽出された。

<考察>

2名から抽出された【将来の保障】【学習の保障】のクラスターからは、別室登校生徒の現実的な課題として学力保障や進路選択における不利益の存在、その回避のための個別指導の難しさが教職員の負担感の一因となる可能性が示唆された。また、【他者との関わり】【人間関係の構築】のクラスターからは、教職員の教育観として人間関係づくりにおける他者につながる力が重視されていたことが、この教育観の理想と現実との狭間に生じる葛藤も負担感の一因になるものと推察された。さらに【教師の精神的余裕】のクラスターからは、人員的な増員とともに支援者としての教職員を心理的に支える体制が必要であることが示唆された。

（2）校長経験者調査

管理職の負担感も高いとの研究結果に基づき、中学校の校長経験者1名を対象とするPAC分析及びインタビュー調査を実施した。

<結果>

C元校長からは、【思い出づくり】【関わり】【きっかけづくり】【出会い】の4つのクラスターが抽出された。

<考察>

抽出された4つのクラスター及びインタビューの結果からは、学校に登校するという結果のみを支援の目標とすることなく、生徒が自らの生き方を主体的に考えられるようにする社会的自立に向けた支援を強く志向していることがわかった。

また、教職員の負担感の少ない校内支援体制づくりとして、①別室登校する生徒の登校状況等を的確に把握する情報共有の重要性、②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった専門家との円滑な連携を一層進めることの重要性が示唆された。

（3）研究成果の発信

<学会発表>

○日本生徒指導学会第24回東京あだち大会

「中学校教職員の別室登校指導に対する意識と負担感(2) - PAC分析によるイメージの抽出から - 」

<論文>

○ヒューマン・ケア研究（日本ヒューマン・ケア心理学会）

「中学校教職員の別室登校指導に対する意識と負担感 - 質問紙調査の結果から - 」掲載予定

○和歌山大学教職大学院紀要（和歌山大学大学院教育学研究科）

「別室登校による不登校生徒への支援の研究 - 中学校長経験者に対するPAC分析の結果から - 」掲載予定

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------